



蘇る、蒲生の自然

蒲生干潟と海浜

2月号

厳冬の蒲生干潟

1月21日7:00頃撮影



厳冬の海浜植物



ヨシとハママツナ



ハマニンニク



オカヒジキ



オニハマダイコン



識別できない海浜植物



識別できない海浜植物



11月20日、緑の葉を残していた植物も、全て枯れてしまいました。



緑の葉は、干潟の一本松にのみ見ることができます。

生命の根源は地下に？

ヨシ

ハマニンニク



ヨシの地下茎

ヨシとハマニンニクともに、地上の茎よりも太い地下茎が地中深く伸びています。
地下茎は湿っぽく、そこから根が生えています。



ハマニンニクの地下茎

地上の茎などは枯れ死しても、地下茎に養分があることで生き残れているようです。震災前から生えていた他の海浜植物も、同じような生きる仕組みになっていると思われます。春に芽吹くのが楽しみです。

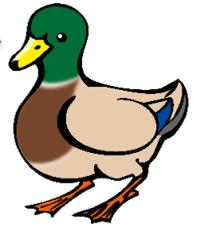


シルエットのコクガン

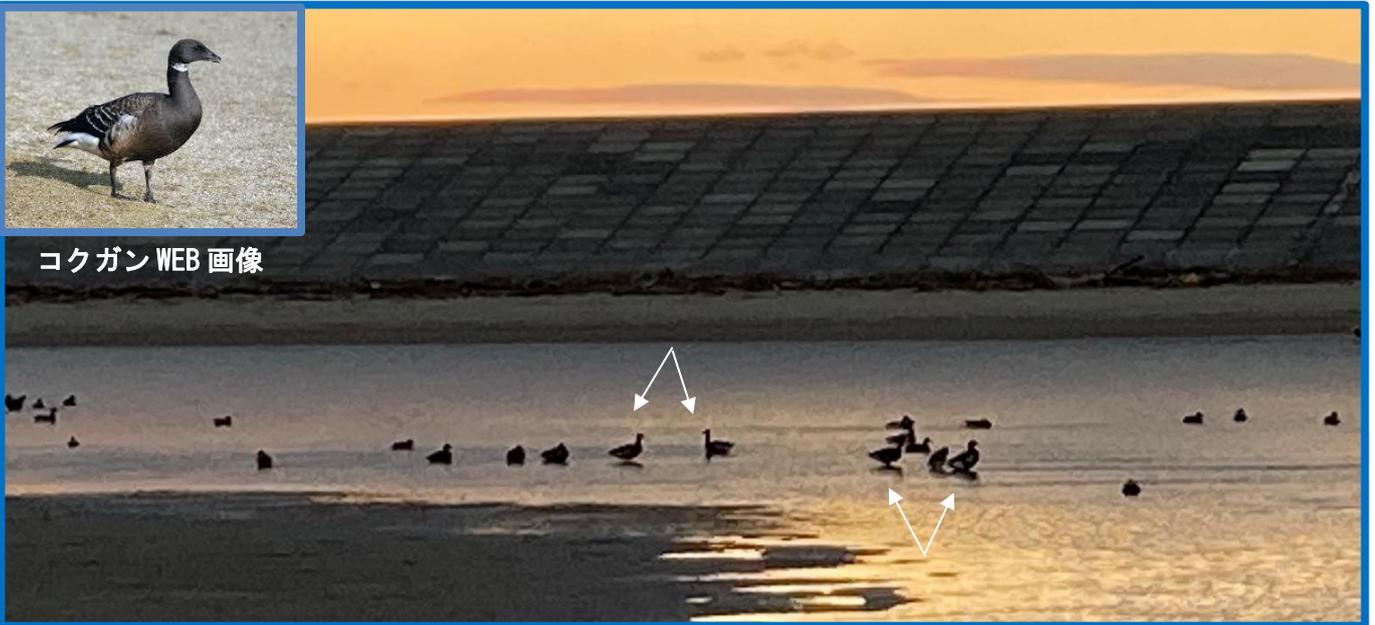


この時期になると、夜明け前に数名の方が導流堤等にプロミナを設置して野鳥を観察されています。めあては国の天然記念物のコクガンのようです。たくさんのガン・カモの中に交じっています。

シルエットで識別できます。



コクガン WEB 画像



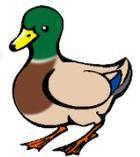
冬鳥として主に北日本に渡来しますが局地的です。青森県陸奥湾や宮城県松島湾には群れが見られます。体は黒色で喉、脇、下腹部、上下尾筒が白いです。

日本では1971年に国の天然記念物に指定されました。



夜明け前になると、真水を飲んだり水浴びをしたりするために七北田川河口へ飛来してきます。今朝は6羽ほど飛来しています。

東雲の空。
夜が明けて、朝が
来ました。



カワウの群飛

12月9日 15時頃



早朝と夕方、カワウが群がって飛んでいました。



12月11日 7時頃



1月の干潟の野鳥（主にマガモ）

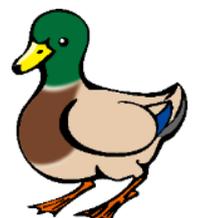
干潟の北側（1月8日）



1月は、マガモのつがいを多く見かけました。



マガモ♂（WEB画像）





日和山前の干潟 (1月29日)

干潟や河口でのんびり過ごすマガモたち



七北田川河口 (1月8日)

七北田川河口にシロチドリと思われる野鳥の群れ



干潮時の干潟にシロチドリと思われる野鳥の足跡がたくさんありました。



シロチドリと思われる足跡



シロチドリ (WEB 画像)

九州以北の砂浜、川原、干拓地などで繁殖します。本州以南で越冬し、干潟などに群れます。胸帯が全面で切れ、脚が黒っぽいのが特徴です。

余談：砂押川に渡来してくる野鳥



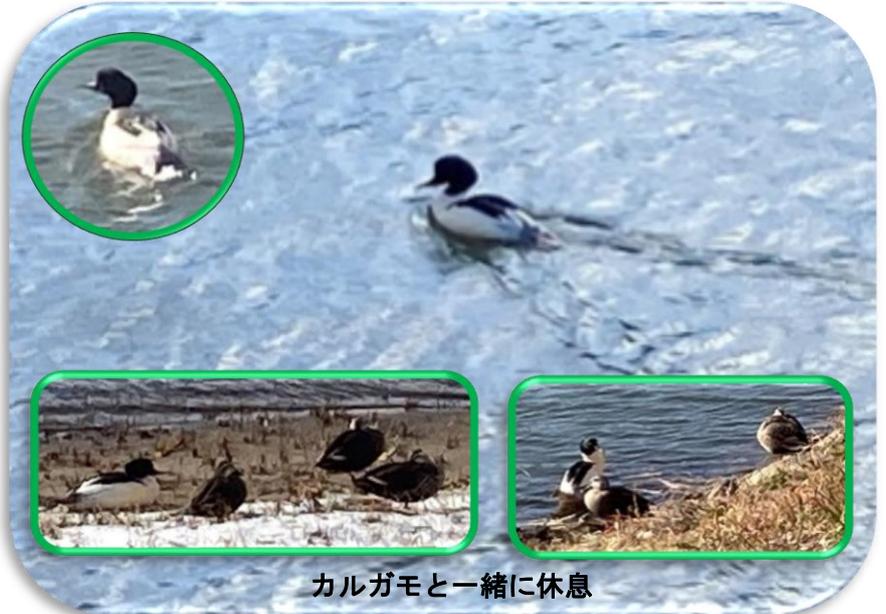
カンムリカイツブリ (WEB 画像)

主に冬鳥として、九州以北の湖沼、河口、海岸に渡来します。青森県の湖沼で少数繁殖します。冬羽では目と黒い頭の間が白く目先に黒線。



カワアイサ♂ (WEB 画像)

主に冬鳥として、本州以南の湖沼、川、内湾などに渡来します。北海道で少数繁殖します。♂の頭部は緑色光沢のある黒色です。



カルガモと一緒に休息



キンクロハジロ♂ (WEB 画像)

主に冬鳥として北海道南部以南の湖沼、池、川などに渡来します。目は黄色。♂は腹部だけが白く、ほかは黒いです。頭部には長い冠羽をもっています。



コガモ♂ (WEB 画像)

主に冬鳥として全国の湖沼、池、川などに渡来します。♂は頭部が栗色で緑色帯があり、灰色の体に水平の白線が出ています。



ヒドリガモ♂
(WEB 画像)



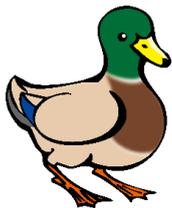
羽を広げて休むカワウ



識別できない野鳥



車道でクルミを見つけると、硬い殻を割るために電線まで運んでクルミを落としました。クルミは2つに割れました。再び路上に降りて、割れたクルミの殻の中の実を車が近くに来てても食べ続けていました。別のカラスも食べに来ました。



上記の野鳥（カラス以外）の渡来数は数羽で少ないです。下の4種の野鳥は20~40羽ほど渡来しているようです。オオハクチョウとオナガガモ、そしてオオバンの3種は一緒に群れて行動していることがよくあります。カルガモは留鳥、漂鳥のためか別のエリアで群れています。



オオハクチョウ



オナガガモ



オオバン



カルガモ